

Vol.31
2008 春の号



Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

アジア太平洋観光交流センター (APTEC) ニュースレター

TOURISM 21

◎矢田立郎・神戸市長あいさつ … p2

◎「日本の木造世界遺産観光フォーラム」をオーストラリア・シドニーで開催 … p4

◎源氏物語フォーラムをフランス・パリで開催 … p7

◎第1回産業観光国際セミナーを開催 … p8

◎阿蘇くまもと空港の利用実態調査報告書のまとめ … p10

◎UNWTO/UNESCO黄山世界遺産国際会議に出席 … p12

◎UNWTOニュース … p14

◎賛助会員名簿 … p15

神戸会議に期待する

神戸市長
矢田 立郎



UNWTO神戸会議の開催

UNWTO（世界観光機関）のアジア太平洋および南アジアの両地域委員会、並びに大都市観光会議が、この6月に神戸で開催されます。

UNWTOの地域委員会は、毎年開催され、各地域の観光発展に向けた現状、課題、活動方針等が話し合われるもので、日本では、平成17年の滋賀県大津市以来3年ぶりの開催となります。

一方、大都市観光会議は、1000万人以上の大都市を30以上抱える

アジア地域において、観光客増加に起因する環境問題や景観維持への対処など、持続可能な大都市観光の成長促進策を検討するもので、一昨年の上海、昨年の釜山に次いで、第3回会議が今回の地域委員会開催にあわせて神戸で開催されることとなったものです。

神戸会議には、UNWTOのフランジアリ事務局長やリファイ事務局次長をはじめ、関係各国から多数の関係者をお迎えすることとなっています。

昨年6月に観光立国推進基本計画が策定され、また今秋には、観光庁の設置も予定されるなど、国を挙げた観光振興の取り組みがいつそう推進される中で、全国に先駆けて国際観光都市として観光振興に取り組んできた本市で、今回の国際会議が開催されることは大変意義深いものがあると考えています。

特に、大都市観光会議は、過去2回の会議での都市観光に関する議論を踏まえ、アジア有数の大都市を抱えるインド、タイの事例発表なども予定されているとのことであり、日本では初の開催となるこの会議で、活発な議論が交わされるものと大いに期待しています。

神戸観光の現状と取り組み

神戸市では、平成7年の震災により、観光施設も大きな被害を受け、観光入込客数も大きく落ち込みました。しかし、民官一体となった復興への取り組みの結果、平成10年には震災前の水準まで回復し、その後も順調に伸びてきています。ただ、震災後の新たな要素として、「神戸



北野異人館街にある「風見鶏の館」は神戸のシンボル

ルミナリエ」への来場者が非常に多く、また、地区別では、市街地の入込客数が大幅に増加している一方で、震災前の水準を下回ったままのところもあり、既存の観光地の一部では厳しい声も聞かれます。

しかし、平成18年2月に開港した神戸空港効果もあって、遠距離客が増加し、市内ホテルの宿泊率も順調に推移しており、さらに、今後、市街地・ウォーターフロントだけで7つのホテルが建築中または建築が予定されるなど、神戸観光にとって明るい話題もあります。

そのような中で、神戸市では、観光振興の持つ地域創造力を活かし、経済や雇用への波及効果を狙うとともに、まちの美化、市民のわがまちを愛する心の醸成など、観光を通じた総合的なまちづくりを推進し、魅力ある観光交流都市を創造することを目標に、2010年を目標年次とした「観光交流都市推進プラン」を策定しています。

このプランでは、5つの重点事業として、①オンリーワンを目指した展開、②神戸の魅力の発信、③滞在型観光の振興、④東アジアに重点をおいた国際観光への取り組み、⑤Welcome to KOBE「神戸観光おもてなし戦略」を掲げ、それぞれ取り組みを進めているところです。

中でも、国際観光への取り組みについては、本市が世界一の明石海峡大橋や日本最古の有馬温泉、日本一美しい六甲山・摩耶山からの夜景など、アジアの旅行者にとって魅力的な観光資源に恵まれており、東アジアからの観光客数が増加傾向にある中で、国のビジット・ジャパン・キャンペーン事業と連携を図りながら、海外でのプロモーションや海外エージェント、メディア招聘、さらには



美しいウォーターフロントも神戸ならではの観光スポット

ツールの製作をはじめとする受け入れ体制の整備等による積極的な外客誘致を行っています。そういった状況の中で、今回の神戸会議の開催は、国際観光都市神戸を世界にアピールする絶好の機会でもあり、会議やレセプション、エクスカージョンなどあらゆる場面において、兵庫県とも連携をしながら、兵庫・神戸の魅力を発信していきたいと考えています。

おわりに

この5月には、G8環境大臣会合も神戸で開催されます。コンベンション都市でもある本市で、このように続けて大きな国際会議を開催できることは大きな喜びであり、ホスト都市として、ご参加の皆さまを心より歓迎するとともに、会議の成功に向けて全力でサポートしていきたいと考えておりま

す。各国からおいでになる皆さまには、神戸での滞在を楽しんでいただき、そして何より、神戸会議が大きな成果を生み、大成功のうちに終わることができますことを心より祈念いたしております。



日本三古泉「有馬温泉」は外国人観光客にも人気

■「日本の木造世界遺産観光フォーラム」を オーストラリア・シドニーで開催、 オーストラリアよりジャーナリストを招聘

国土交通省と日本「木造の世界遺産」市町村連絡協議会は、去る2月22日にオーストラリア・シドニー市内のホテルで「日本の木造世界遺産観光フォーラム」を開催した。この事業は、ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）の一環として、当財団が企画運営し、国際観光振興機構（JNTO）などの協力の下で行われ、同国メディア、旅行エージェントをはじめ日本の文化に関心の深いオーストラリア人や日系団体のメンバーなど約430人が参加した。

日本国内には世界最古の木造建築である法隆寺をはじめ、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産に11地域が登録されている。そのうち木造世界遺産のある奈良県奈良市や斑鳩町など3市町・1広域連合で、日本「木造の世界遺産」市長村連絡協議会は構成されており、国内外で「ぜひ実物を見に来て」とPRしている。

①フォーラム

フォーラムでは、冒頭に映像で日本の木造世界遺産と宮大工の技術を紹介した後、主催者あいさつを藤原昭 連絡協議会会長（奈良市長）及び国土交通省が行った。

藤原連絡協議会会長は、「日本独自の『木の文化』は、日本人の精神文化そのものであり、是非、この木造の世界遺産に触れていただき、日本人の心に触れていただきたい。このシドニーでのフォーラムがオーストラリア全土への情報発信の機会となることを期待している」とあいさつした。

続いて、世界文化遺産の登録に携わった東京大学大学院の西村幸夫教授が基調講演を行った。西村教授は、法隆寺、日光東照宮、厳島神社、姫路城などの建築技術、修復作業を写真や図解で紹介し、使用木材のヒノキは耐性に優れ、伐採後五百年間は強度が増し次の五百年で元に戻るため、最低一千年は耐久性がある、などと話すと、会場から驚きの声が上がった。講演後の質疑応答でも会場から多くの質問が出され、我が国の



藤原昭・日本「木造の世界遺産」市町村連絡協議会会長（奈良市長）挨拶

木造世界遺産の建材として台湾の木材が輸入されていることを西村教授が回答すると、会場全体が笑いに包まれた。

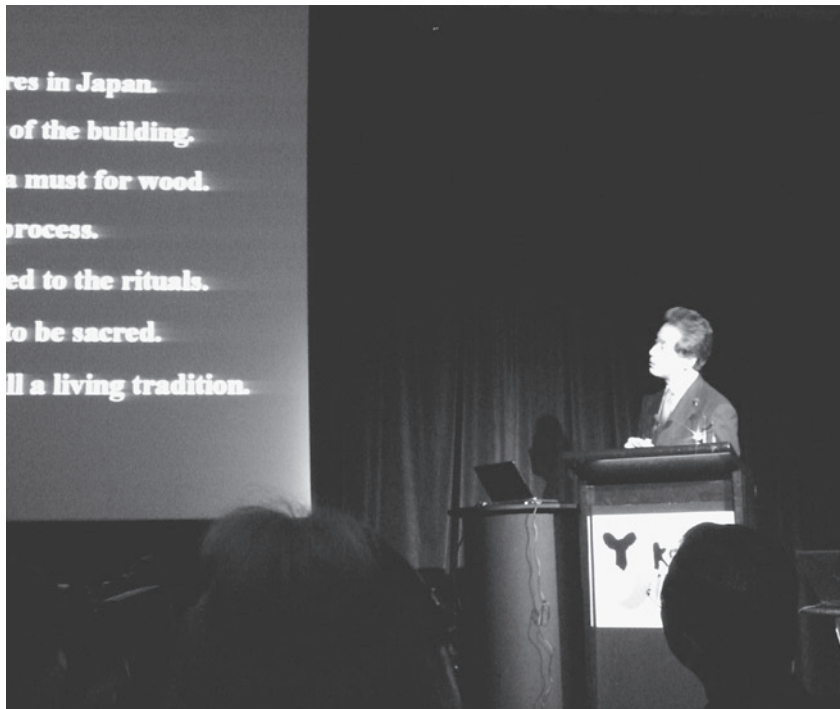
引き続いて、奈良市、斑鳩町、南和広域連合の首長らが、所在する木造世界遺産の「実物を是非見に来て」と観光プレゼンテーションを行っ

た。

最後に、世界遺産である紀伊山地の霊場と参詣道で修行を積んだ吉野・大峯山護持院喜蔵院住職の中井教善師が、修行姿の山伏の装束で法螺貝を吹いて入場した。同師は「山伏の姿と心」と題し、山岳での厳しい修行生活をユーモアを交えて語

り、そのエキゾチックな魅力と合わせ、参加のオーストラリア人聴衆からは喝采を受け、フォーラムは終了した。

フォーラム後に開催された交流会では、メディアや旅行エージェントなど約150人が参加し、講師や各市町の代表者に多くの質問が集中し、参加者からは「日本の木造建築の素晴らしさを再認識した」「ぜひ訪れて実物を見てみたい」などの声が聞かれた。



西村幸夫・東京大学大学院教授の基調講演



②自治体首長による観光プロモーション

フォーラム前日の21日から22日にかけて、奈良市長など市長村協議会を構成する自治体首長3名他は、JNTOシドニー事務所や訪日旅行を

手がける大手旅行会社を訪れ、オーストラリアにおける最近の訪日旅行市場の概況と訪日促進策について意見交換した。また、全国紙で地元有力メディアであるThe Australian社や豪日プレス社を訪問し、日本の



中井教善師（吉野大峯山護持院喜蔵院住職）の講演風景

木造世界遺産の魅力をPRするとともにオーストラリア人へのPRのノウハウ等についてアドバイスを受けた。

③オーストラリアからメディアを招聘

フォーラムの効果拡大のため、日本の木造世界遺産を直接みてもらい、その魅力を広くオーストラリアの旅行者や一般読者に周知してもらうため、昨年11月下旬にオーストラリアから5人のメディアを招聘した。

訪日したのは、ダン・ウグロウ (Travel Weekly)、デ・パルトリッジ (The Courier-Mail)、ピーター・キルカレン (New Choices for Retirement)、キャロライン・グラッドストーン (フリーランス 旅行作家)、クリス・ビネイ (フリーランス 旅行作家) の各人である。

一行は11月26日から12月2日までの7日間にわたり、西日本にある木造世界遺産を訪問した。姫路市の姫路城を皮切りに、奈良県吉野町の金峯山寺蔵王堂、斑鳩町の法隆寺、奈良市の東大寺大仏殿、春日大社、宇治市の平等院、京都市清水寺などを順次視察した。

一行は姫路城ではその壮麗さを実感するとともに、山奥に佇む修験道



熱心に講演に聞き入るフォーラム参加者

の道場である金峯山寺蔵王堂では、自然木を利用した建築の絶妙さに触れて感嘆の声を上げていた。法隆寺では、西院伽藍にある五重の塔が「なぜ地震の多い日本でも倒れずに昔の姿を残しているのか」という説明を聞き、日本建築の技術の高さに驚嘆していた。春日大社の神職からは、「日本には古代より自然と共生するという生き方があり、そのため奈良市内の街中で緑豊かな原生林が残っており、世界遺産登録に際して評価された」という説明を聞き、うなず

いていた。

今回特別に春日大社では神職により演じられた舞楽の奉納、東大寺大仏殿では僧侶による大仏建立の説明をそれぞれ受けることができた一行は、日本の歴史文化の奥の深さに感銘を受けていた。

このツアーでの体験をもとに、一行が日本の木造世界遺産の魅力をオーストラリア国内に広く発信してくれることを期待したい。



The Australian社表敬訪問



オーストラリアメディア招聘

■源氏物語フォーラムをフランス・パリで開催 ～日本の古典文学を利用した外客誘致促進～

本年3月11日、国土交通省主催、財団法人アジア太平洋観光交流センター（APTEC）の企画運営の下、ビジット・ジャパン・キャンペーン事業「源氏物語フォーラム」がパリ日本文化会館で開催された。本年は日本古典文学の名作である源氏物語が誕生して1,000年にあたる。我が国では源氏物語千年紀関連イベントが展開されるが、フランスにおいても昨年フランス語版源氏物語が出版されるなど、源氏物語へ新たな関心が向けられている。

昨年2月に当財団では、国土交通省が主催した「日本の古典文学を活用した外国人観光客誘致」を検討するパネルディスカッション（京都府宇治市）を企画運営したが、その中でフランスに日本の古典文学に興味を示す根強い日本ファンが存在することが言及され、日本の古典文学が観光素材として訪問動機になり得るとされた。このパネルディスカッションの成果を踏まえ、今般フランス・パリで開催された本フォーラムは、源氏物語が誕生した平安王朝の雅な世界や文化をフランス旅行メディア、エージェンツに紹介することにより、元々日本の伝統文化に関心が高いフランスにおいて、更なる



ディアーンヌ・ドゥ・セリエ氏の基調講演

訪日旅行促進を目指すものである。

フォーラムは日本文化をフランス人に紹介する活動を行っているパリ日本文化会館で11日午後開催された。冒頭、美しい四季折々の日本を紹介した映像紹介と琴の演奏が行われたのに続き、財団法人アジア太平洋観光交流センター理事長の本田勇一郎氏が「源氏物語の魅力を十分理解していただくことにより、その生誕地、日本を訪れていただくきっかけとしていただきたい」と開会の

挨拶を行った。続いて、昨年フランス語版源氏物語を出版したディアーンヌ・ドゥ・セリエ出版社社長のディアーンヌ・ドゥ・セリエ女史により「源氏物語を通してみる日本の魅力と伝統」と題して記念講演が行われ、源氏物語絵巻物に細部にわたり表現されている当時の貴族の生活などを映像により紹介するとともに、源氏物語の背景にある平安王朝の雅な世界の魅力について、予定時間を超過するほど熱心に語られた。

続いて、京都府で源氏物語千年紀を担当する同府文化芸術室参事の保科秀行氏が、関西一円の源氏物語ゆかりの地を観光プロモーションの観点から、映像を交えてわかりやすく紹介した。

最後に、伝統文化の実演ということで京都より渡仏した着付け師による十二単着付けショーが行われた。現地パリジェンヌをモデルに着付け師が十二単を一枚ずつ着付けしていく模様を見て、約80名のフランス人聴衆からは拍手喝采を受けた。



アトラクション：十二単の着付け

第1回産業観光国際セミナーを開催

世界観光機関（UNWTO）と国土交通省は、当財団の企画運営の下、3月25日に名古屋市の産業技術記念館において「第1回産業観光国際セミナー」を開催した。

新しい観光交流コンセプトとして産業観光にいち早く着目し、提唱してきた地域での開催となったこのセミナーは、経済産業省、経団連等経済団体、愛知県、名古屋市のほか多くの観光関係団体の後援をいただきつつ、我が国の産業観光による地域振興及びアジア地域を中心とする訪日外国人旅行者を如何に維持、拡大していくかをテーマに開催した。

当日は地元愛知県、名古屋市をはじめ周辺自治体、観光関係者、企業関係者及び一般参加者など約280名が参加し、盛会裡に終了した。

1. 開催趣旨及び経緯

産業観光はわが国の産業・技術の歴史的蓄積や現在の最先端工業、これらとの関わりで形成された都市や文化などをテーマとしたものであり、近年新たに注目されている観光形態である。

また、中国をはじめとするアジア地域からの訪日観光の動機に「日本の近代ハイテク」及び「産業観光」が上位にランクされており（*）訪日外国人旅行者の増大に産業観光は不可欠である。

今回のセミナーは、産業観光が持つ集客ビジネスとしての魅力、成長性について議論し、そのニーズと役割・課題を整理し、海外の先進事例にも学びながら、具体的な集客増大策を見出すことと、産業観光の先進地域である中京圏の取り組みを紹介し、新たなビジネスモデルを提示することにより、わが国の産業観光による地域振興と中国、韓国等アジア地域からの訪日外国人旅行者の拡大に寄与することを目的として、

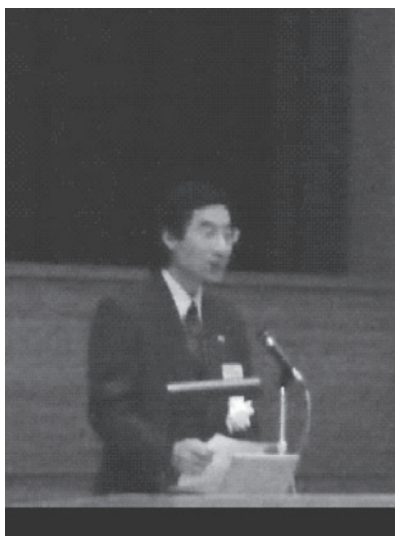


会場風景（産業技術記念館：大ホール）

UNWTOと国土交通省共催のセミナー開催となった。

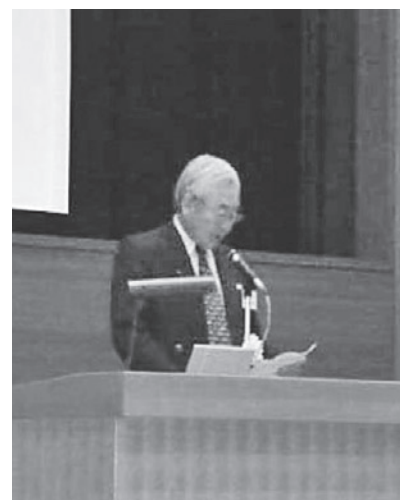
2. プログラム

セミナーではまず、主催者の国土交通省大臣官房審議官西阪昇氏が「産業観光は観光立国推進基本計画に政府が講ずべき施策として明記され、その振興に取り組んでおり、産業観光の先進地域である愛知県で訪日外国人旅行者の増大をテーマとして開催されることは大きな意義がある。」と挨拶した。



国土交通省西阪審議官 挨拶

続いてUNWTOアジア太平洋センターの本田勇一郎代表は「愛知万博を契機としてアジアからの来訪者は急増しているが、ものづくり文化及びその資産を観光資源化する取組みは緒についたばかりであり、訪問者のニーズと受け入れ側企業・機関の認識は必ずしもマッチしておらず多くの課題があり、本セミナーで外国人旅行者の誘致強化策の方向性を見出したい。」と述べた。



UNWTOアジア太平洋センター
本田代表 挨拶

（*）「JNTO訪日外国人旅行者調査 2003-2004」